

宗教学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村 敏明	3	前期 金曜日 3講時	
宗教学概論	日本宗教の近現代	2	問芝 志保	4	後期 水曜日 2講時	
宗教学基礎講読	宗教民俗学の視点入門	2	阿部 友紀	3	前期 水曜日 4講時	
宗教学基礎講読	「聖書」を考える	2	庄司 一平	4	後期 火曜日 2講時	
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	高橋 原.谷山 洋三. 問芝 志保.木村 敏明	3	前期 金曜日 5講時	
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明.高橋 原. 谷山 洋三.問芝 志保	4	後期 金曜日 5講時	
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	阿部 友紀.問芝 志保. 木村 敏明.谷山 洋三	3	前期 月曜日 4講時 前期 月曜日 5講時	
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明.阿部 友紀. 谷山 洋三.問芝 志保	4	後期 月曜日 4講時 後期 月曜日 5講時	
宗教学各論	宗教社会学	2	問芝 志保	5	前期 火曜日 3講時	
宗教学各論	災害と宗教	2	木村 敏明	6	後期 金曜日 3講時	
死生学各論	死生学の諸問題	2	高橋 原	5	前期 水曜日 3講時	宗教学各論
死生学各論	スピリチュアリティと宗教心理	2	高橋 原	6	後期 水曜日 3講時	宗教学各論
死生学各論	死とともに生きることを学ぶ	2	竹之内 裕文	集中(6)	集中講義	宗教学各論
実践宗教学各論	死生学文献講読	2	高橋 原	5	前期 水曜日 5講時	宗教学各論
実践宗教学各論	宗教と社会福祉	2	谷山 洋三.井川 裕覚	5	前期 金曜日 4講時	宗教学各論
実践宗教学各論	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践	2	高橋 原	6	後期 水曜日 5講時	宗教学各論
実践宗教学各論	スピリチュアルケア	2	井川 裕覚.谷山 洋三	6	後期 金曜日 4講時	宗教学各論
宗教学講読	アメリカ大学における怪談	2	ANDREWS DALE	5	前期 火曜日 1講時	
宗教学講読	アメリカ大学における怪談	2	ANDREWS DALE	6	後期 火曜日 1講時	
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明.高橋 原. 谷山 洋三.問芝 志保	5	前期 金曜日 5講時	
宗教学演習	宗教研究の技法	2	問芝 志保.木村 敏明. 高橋 原.谷山 洋三	6	後期 金曜日 5講時	
宗教学実習	宗教学調査法	2	阿部 友紀.谷山 洋三. 問芝 志保.木村 敏明	5	前期 月曜日 4講時 前期 月曜日 5講時	

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
宗教学実習	宗教学調査法	2	谷山 洋三.問芝 志 保.木村 敏明.阿部 友紀	6	後期 月曜日 4講時 後期 月曜日 5講時	

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と現代社会

2. Course Title (授業題目)：Religion and Modern Society

3. 授業の目的と概要：この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will explore the various aspects of religion in modern society from the perspective of religious studies to help students understand the meanings and tasks of religion in modern world.

5. 学習の到達目標：現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。

宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students learn about the meanings and tasks of religions in modern world.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. . 宗教を定義／脱定義する 聖なるもの
3. 宗教を定義／脱定義する 儀礼
4. 宗教を定義／脱定義する 宗教集団
5. 小括
6. 現代宗教の基礎理論 世俗化
7. 現代宗教の基礎理論 公共宗教
8. 現代宗教の基礎理論 民間信仰
9. 小括
10. 宗教と政治
11. 宗教と経済
12. 宗教と教育
13. 宗教と移民
14. 宗教と科学
15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のレポート[60%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015年）をあげておく。

10. 授業時間外学習：日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学概論／ Science of Religions (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：問芝 志保

コード：LB43202, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本宗教の近現代
2. Course Title (授業題目)：Japanese Religion in Modern Society
3. 授業の目的と概要：近代・現代日本社会における宗教現象の変容過程を論じるとともに、日本の宗教学・宗教社会学の歴史と学説・理論の展開を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will discuss the theoretical history of the study of religion and the sociology of religion in Japan, relating them to the process of transformation of religious phenomena in Japanese society.
5. 学習の到達目標：宗教学・宗教社会学の基礎的知識および基本的な概念を学ぶ。日本人・日本社会にとって宗教とは何かを考察する視点を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn about the history of religious studies in Japan and its basic terms, and develop a perspective on what religion means for Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
教員が講義する。ミニットペーパーに記された質問や疑問については、可能な限り次回の授業開始時に回答する。

(1)イントロダクション
(2)「日本の宗教」をいかにとらえるか
(3)幕末維新期の民衆宗教
(4)明治期の日本型政教関係
(5)日本における宗教学の創始
(6)近代日本と仏教・キリスト教・新宗教
(7)戦争と宗教
(8)戦後日本の宗教政策
(9)都市化と宗教浮動人口
(10)高度経済成長期の新宗教
(11)オウム事件と宗教・宗教学
(12)スピリチュアルブーム・パワースポットブーム
(13)震災と宗教・宗教学
(14)人口減少・高齢多死・グローバル時代の宗教
(15)まとめ
8. 成績評価方法：
毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、わからない事項があった場合は事典等で調べる。
授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：阿部 友紀

コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教民俗学の視点入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Perspective of Religious Folklore

3. 授業の目的と概要：本授業は日本の宗教現象に注目した宗教民俗学の視点について学ぶことを目的とする。この分野の研究に関しては数多くの蓄積があるが、ライフスタイルや現代日本の社会変化を踏まえて宗教民俗学の現状と課題を再考する必要がある。本年の授業では、宗教民俗学のトピックを 4 点にまとめ、比較的オーソドックスな視点の論文と新しい視点や対象に基づいた論文について読解し議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to learn about the perspective of religious folklore focusing on religious phenomena in Japan. Although there is a great deal of research in this field, it is necessary to reconsider the current situation and issues of religious folklore in light of lifestyles and social changes in contemporary Japan. In this year's class, the topics of religious folklore are summarized into four points, and papers based on relatively orthodox perspectives and papers based on new perspectives and objects are read and discussed.

5. 学習の到達目標：宗教民俗学の視点と対象について比較検討することで、このジャンルの基礎を理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By comparing the perspectives and objects of religious folklore, we can understand the basics of this genre.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

次の 4 つのテーマを設定し、古典的視点の論文と新視点の論文を 3 本程度事前に読んでおく。各担当者はレジュメを作成し、全体でディスカッションをする。

1. 授業について
2. 宗教民俗学とは①
3. 宗教民俗学とは②
4. 宗教民俗学とは③
5. 巡礼①
6. 巡礼②
7. 巡礼③
8. 流行神①
9. 流行神②
10. 流行神③
11. 怪異①
12. 怪異②
13. 怪異③
14. まとめ
15. 予備日

各論文は準備するので、各自コピーして予習をしておく。

8. 成績評価方法：

期末レポート (60%)・ディスカッションの参加度 (20%)・出席率 (20%)

9. 教科書および参考書：

論文を準備するので各自コピーする。参考文献はその都度提示する。

10. 授業時間外学習：予習をしておくこと。議論への積極的な参加を期待する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学基礎講読／ Science of Religions (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4 単位数：2

担当教員：庄司 一平

コード：LB42208, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「聖書」を考える
2. Course Title (授業題目)：The Bible, Critically Considered
3. 授業の目的と概要：Kristin Swenson, A Most Peculiar Book: the Inherent Strangeness of the Bible (2021)を輪読する。「聖書」という奇妙な書物について、宗教学的に考え議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The class will read the whole textbook (Kristin Swenson, A Most Peculiar Book: the Inherent Strangeness of the Bible, 2021) and discuss cultural and historical issues on the Bible.
5. 学習の到達目標：宗教研究の基本的な概念・理論・方法について理解できる。「聖書」および宗教教典の文化的・歴史的背景について説明できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand basic concepts, theories, and methodologies of religious studies and are to explain the cultural and historical contexts of the “sacred” scriptures as well.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
テキストの各章を複数の担当者で分担する。担当者は授業時に用語解説・内容の説明・質問への応答等を行う。
 1. 授業の概要・進め方について
 2. “Introduction: An Arranged Marriage”
(PART I: A Book Like No Other)
 3. “A Problematic Book”
 4. “But in the Original. . .”
(PART II: Beings Odd and Otherwise)
 5. “God”
 6. “Angels, Demons, and a Talking Ass”
 7. “Good People Behaving Badly”
(PART III: Troubling Texts)
 8. “Impossibilities, Normalized”
 9. “Misconceptions, Misapprehensions”
 10. “And General Befuddlements”
(PART IV: But the Bible Says. . .)
 11. “Arguments behind Closed Doors”
 12. “Biblical (Im)Morality”
 13. “The Perennial Bestseller”
 14. “Ten Commandments for Reading the Bible”
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
「授業への参加度」(50%) および「期末レポート」(50%) により総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
Kristin Swenson, A Most Peculiar Book: the Inherent Strangeness of the Bible, Oxford University Press, 2021.
『聖書 聖書協会共同訳』日本聖書協会、2018年 (<https://www.bible.or.jp/read.html>)。
(参考書)
山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』岩波現代文庫、2003年／佐藤研『聖書時代史 新約篇』同左。
10. 授業時間外学習：担当者は担当部分の日本語訳、用語や内容のリサーチを事前に行っておくこと。また事後には必要に応じて補足説明を行うこと。
他の参加者は用語や日本語訳・内容等について質問を用意しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 原, 谷山 洋三, 問芝 志保, 木村 敏明

コード：LB35502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.
5. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 1グループ
 3. 学部3年発表 2グループ
 4. 学部3年発表 3グループ
 5. 学部3年発表 4グループ
 6. 学部3年発表 5グループ
 7. 学部3年発表 6グループ
 8. 予備日：学部3年欠席者のため
 9. 学部4年発表 グループ1
 10. 学部4年発表 グループ2
 11. 学部4年発表 グループ3
 12. 学部4年発表 グループ4
 13. 学部4年発表 グループ5
 14. 学部4年発表 グループ6
 15. 予備日：学部4年欠席者のため
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：宗教学基礎演習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 敏明・高橋 原・谷山 洋三・問芝 志保

コード：LB45502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.
5. 学習の到達目標：宗教学研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 グループ1
 3. 学部3年発表 グループ2
 4. 学部3年発表 グループ3
 5. 学部3年発表 グループ4
 6. 学部3年発表 グループ5
 7. 予備日：学部3年欠席者のため
 8. 学部4年発表 グループ1
 9. 学部4年発表 グループ2
 10. 学部4年発表 グループ3
 11. 学部4年発表 グループ4
 12. 学部4年発表 グループ5
 13. 予備日：学部4年欠席者のため
 14. 学部2年発表 グループ1
 15. 学部2年発表 グループ2
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加。
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：阿部 友紀. 問芝 志保. 木村 敏明. 谷山 洋三

コード：LB31404, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目) : How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタビュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学基礎実習／ Science of Religions (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時. 後期 月曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 敏明. 阿部 友紀. 谷山 洋三. 問芝 志保

コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目) : How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：間芝 志保

コード：LB52305, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教社会学
 2. Course Title (授業題目)：Sociology of Religion in Japan
 3. 授業の目的と概要：①日本の宗教実践（特に葬送墓制、死別、巡礼、パワースポットブームなど）を対象とした英語論文を講読する。②外国人研究者が日本の宗教をどのようにとらえ、どのような点に注目しているかを理解する。③国内の研究動向との関連をディスカッションする。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：(1) read English-language articles on Japanese religious practices (funeral and grave systems, bereavement, pilgrimage, power spot boom, etc.) (2) understand how foreign researchers view Japanese religions and what points they focus on (3) discuss the relationship with research trends in Japan
 5. 学習の到達目標：「宗教と社会」という問題をとらえるための視座を養う。
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn about a basic framework for the study of religion and the sociology of religion in Japan.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ・各回1名の受講者が報告を担当する。報告者は課題論文を熟読し、要約したレジюмеを作成し、報告を行う。
 - ・誰がいつ何を報告するかは初回授業の際に決定する。報告者になることを希望する者は初回授業に出席すること（どうしても出席できない場合は応相談）。
 - ・報告者にならなかった者の成績評価は期末レポートの提出によって行う。
 - (1) イントロダクション
 - (2) 日本の宗教社会学史概説講義①
 - (3) 日本の宗教社会学史概説講義②
 - (4) 現代日本の葬送墓制①
 - (5) 現代日本の葬送墓制②
 - (6) 現代日本の葬送墓制③
 - (7) 現代日本の葬送墓制④
 - (8) 日本の寺院・新宗教①
 - (9) 日本の寺院・新宗教②
 - (10) 日本の寺院・新宗教③
 - (11) 日本およびアジアの巡礼①
 - (12) 日本およびアジアの巡礼②
 - (13) 日本およびアジアの巡礼③
 - (14) 日本およびアジアの巡礼④
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：

レジюмеによる報告 もしくは 期末レポートの提出による。
 9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
 10. 授業時間外学習：課題論文を熟読し、わからない事項は事典等で調べておく。

授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：宗教学各論／ Science of Religions (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB65304, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害と宗教

2. Course Title (授業題目) : Disaster and Religion

3. 授業の目的と概要：突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的实践に関する文献を毎回取り上げ、現代社会における宗教の意義や課題について議論と講義を行うことで問題の理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explores various previous studies on disaster and religion and discusses meanings and tasks of religion in modern society.

5. 学習の到達目標：宗教学的なものの見方をみにつけることができる。

現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand meanings and tasks of religion in modern society through the topic about religion and disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 1: 何故災害と宗教か?
2. イントロダクション 2: 発表準備
3. 災害と神話
4. 災害と神話
5. 災害表象
6. 災害表象
7. 災害と祭礼
8. 災害と祭礼
9. 災害と死者
10. 災害と死者
11. 宗教と災害支援
12. 宗教と災害支援
13. 宗教とレジリエンス
14. 宗教とレジリエンス
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表とコメントで評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：使用文献の精読および発表準備

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53304, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Some Topics on Death Studies
3. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn what death studies is.
5. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand death in cultural contexts from the view point of death studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
指定テキスト（参考書）のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。
 - (1) 死生学とは何か
 - (2) 死生観と宗教
 - (3) 日本人の死生観
 - (4) 喪と追悼
 - (5) 死生観一国と地域の視点から
 - (6) マスメディアで死生について考える
 - (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
 - (8) 老いと死
 - (9) 病い経験と「生」
 - (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
 - (11) 自己決定権
 - (12) ターミナルケア
 - (13) 自殺予防
 - (14) 尊厳死
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：
毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
(参考書)
石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014
石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63303, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアリティと宗教心理
2. Course Title (授業題目)：Spirituality and Psychology of Religion
3. 授業の目的と概要：W・ジェームズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な宗教心理学者たちの議論を踏まえて、諸事例をとりあげながら、スピリチュアリティと宗教について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn about the classical theories of psychologists of religion, such as, Willam James, Sigmund Freud, or Carl Gustav Jung. This will help students understand the meaning of religion and spirituality in terms of human psyche.
5. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、危機におけるスピリチュアリティの働きを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Student will learn the thought of psychologists and basic theory of their system, in order to understand how spirituality effects human in crisis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：古典的回心理解(1)
 - 第3回：古典的回心理解(2)
 - 第4回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(1)
 - 第5回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(2)
 - 第6回：ウィリアム・ジェームズの宗教論(1) 健全な心と病める魂
 - 第7回：ウィリアム・ジェームズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム
 - 第8回：心理療法と宗教(1)
 - 第9回：心理療法と宗教(2)
 - 第10回：心理療法と宗教(3)
 - 第11回：心理療法と宗教(4)
 - 第12回：深層心理学と宗教(1)
 - 第13回：深層心理学と宗教(2)
 - 第14回：深層心理学と宗教(3)
 - 第15回：まとめ
8. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。
10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：死生学各論／ Death & Life Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中

セメスター：6 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文

コード：LB98822, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2. Course Title (授業題目) : Cultivating Wisdom of Mortal Human Life

3. 授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course describes the origins and purposes of the discipline of thanatology and covers various problems and challenges faced by modern medicine, such as an increasing demand for terminal care and home health nursing. Today, we are asked to provide care and support in multiple and varied circumstances: as volunteers in the areas affected by the Great East Japan Earthquake, as elderly care workers, etc. Ultimately, any member of our super-aged, mass death society may find him- or herself in the position of a caregiver. This course aims to prepare students for this role and give each of them an opportunity to look for his or her personal way to address a range of issues related to human life and death.

5. 学習の到達目標：①対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

②テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will learn the key concepts of thanatology and gain a deeper insight into present-day issues concerning life and death. Students are expected to:

1) discover the joys, as well as effectiveness, of dialogic inquiry through interactive, dialogic l

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章（序章～終章）をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場（穂波の郷）でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から（序章）
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話① 重度障害者自立ホームから（第1章）
- 5) テキストをめぐる対話② 在宅緩和ケアの現場から（第2章）
- 6) テキストをめぐる対話③ 死者と共にある農村との出会い（第3章）
- 7) テキストをめぐる対話④ いのちにあずかって生き、死ぬ（第4章）
- 8) テキストをめぐる対話⑤ 共に生きること、本当に生きること（第5章）

9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場（穂波の郷）でのフィールドワーク

- 12) テキストをめぐる対話⑥ 森と湖の国の「福祉」（第6章）
- 13) テキストをめぐる対話⑦ ホスピス運動の源流を辿る（第7章）
- 14) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話（終章）
- 15) 授業全体のふり返り

8. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話（全9回）の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回＝72点のポイントを獲得します。

2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

9. 教科書および参考書：

講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』（ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223）をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

The course is based on the instructor's book:

Takenouchi Hirobumi. Shi to Tomo ni Ikiru Koto wo Manabu: Tetsugaku to taiwa (Polano Shuppan, 2019)

10. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれませんが。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話＝本番という考え方を共有してください。

Students are required to read the assigned texts in advance and fill in all feedback sheets (eight in total).

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次の URL を参照ください。 <https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学文献講読
2. Course Title (授業題目)：Readings: Death and Life Studies
3. 授業の目的と概要：死生観に関する文献を読み、日本文化における悲嘆とそのケアのありかたについて基礎的な知識を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read literature on the history and culture related to death and grief in Japanese cultural tradition.
5. 学習の到達目標：日本人の文学的感性が死と悲嘆をどのように捉えてきたのか、事例を踏まえて理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the history and culture related to grief care, in order to understand effective method of care for the bereaved. .

7. 授業の内容・方法と進度予定：

島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)を読み進める。

学生は担当箇所についての要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

- (1)イントロダクション
- (2)【序章】自分自身の死生観を探る——東日本大震災後に目立つ死生観探究
- (3)【第1章】魂のふるさとと原初の孤独 死者が近くにいるという感覚
- (4)折口信夫のマレビト
- (5)魂のふるさとへの憧憬
- (6)【第2章】無常を嘆き、受け入れる 無常——野口雨情の童謡と一茶の「おらが春」
- (7)無常を描き出す宗教文書と文芸
- (8)無常観——芭蕉と李白
- (9)【第3章】悲嘆の文学の系譜 王朝文芸の「はかなし」と死生観
- (10)母の悲嘆と作者の憤り、そして笑い
- (11)【第4章】無常から浮き世へ 桜に託された孤独、苦悩と信仰の間
- (12)現代人のうき世観と魂のふるさと
- (13)【終章】夏目漱石、死生観を問う——死生観が問われる時代
- (14)まとめ その一
- (15)まとめ その二

8. 成績評価方法：

出席回数と発表内容により総合に評価する。

9. 教科書および参考書：

島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)、朝日新聞出版、2023

10. 授業時間外学習：指定テキストを熟読すること。発表担当者はレジュメを用意すること。詳細は初回に指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LB55402, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と社会福祉

2. Course Title (授業題目)：Religion and Social Welfare

3. 授業の目的と概要：社会福祉の源流として、キリスト教など諸宗教の慈善活動がある。これらの慈善活動そのものは意義深いものであるが、時代性による限界もあって、人権意識や平等性に課題があった。そのような前近代的課題を克服することで、個人の自由を前提とした「社会福祉」が発展した。このような経緯を踏まえて、日本での仏教社会福祉史、バングラデシュの仏教徒と社会福祉活動、長岡西病院ビハラー病棟、東日本大震災後の被災者支援活動などを例に、宗教と社会福祉の関係性について考察し、超高齢多死社会となる日本社会において、宗教が果たし得る役割について検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The source of social welfare is the charity activities of various religions, including Christianity. Although these charity activities themselves are significant, they are limited by the times, and there are issues with human rights awareness and equality. By overcoming such pre-modern challenges, "social welfare" based on individual freedom developed. Based on this background, we will consider the relationship between religion and social welfare, using examples such as the history of Buddhist social welfare in Japan, Buddhists and social welfare activities in Bangladesh, the Vihara Ward of Nagaoka Nishi Hospital, and support activities for victims after the Great East Japan Earthquake, and so on. We will examine the role of religion in Japanese society, which is becoming a super-aging death-ridden society.

5. 学習の到達目標：宗教と社会福祉の関係性、超高齢多死社会における宗教の貢献について考察し、理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand the relationship between religion and social welfare, and contributions by religious organizations in a super-aged death-ridden society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

資料等は、Google Classroom に提示する。

第1回：オリエンテーション

第2回：慈善と社会福祉

第3回：社会福祉と諸宗教

第4回：仏教と社会福祉

第5回：バングラデシュの仏教と社会福祉

第6回：ビハラー運動

第7回：小括（仏教と社会福祉）

第8回：震災と支援

第9回：地域包括ケア

第10回：自殺対策

第11回：小括（死と宗教）

第12回：ソーシャル・キャピタル

第13回：コンパッション・コミュニティ

第14回：小括（地域社会と宗教）

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：アラン・ケレハー『コンパッション都市』慶應義塾大学出版会、2022年

淑徳大学創立50周年記念論集刊行委員会編『共生社会の創出をめざして』学文社、2016年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践
2. Course Title (授業題目)：Practice of care around death by religious professionals
3. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について現場経験から学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students learn how religion has played the role of care for the people facing death.
5. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、宗教文化が死に直面した人々のケアに寄与してきたことを理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand from practical cases how religion has contributed to the care for the people facing death.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者（臨床宗教師）を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。
 1. 臨床宗教師の理念
 2. グリーフケアと宗教
 3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
 5. 終末期医療と宗教者
 6. 臨床心理学と宗教
 7. 民間信仰論
 8. 宗教間対話
 9. 臨床宗教師の実践報告(1)
 10. 臨床宗教師の実践報告(2)
 11. 臨床宗教師の実践報告(3)
 12. 臨床宗教師の実践報告(4)
 13. 臨床宗教師の実践報告(5)
 14. 臨床宗教師の実践報告(6)
 15. 臨床宗教師の実践報告(7)
8. 成績評価方法：
 毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。
9. 教科書および参考書：
 特に指定しない。
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：実践宗教学各論／ Practical Religious Studies (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：井川 裕覚・谷山 洋三

コード：LB65402, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア
2. Course Title (授業題目)：Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Discussing on spiritual care in Japan and confirming its diversity and challenges; such as the background of the birth of Rinsho-shukyo-shi, or interfaith chaplain, the difference between spiritual care and religious care, and the utilization of religious resources as the commonality of both cares, The students will explore the specifics of care practice and deepen their understanding through a workshop.
5. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法の理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand spiritual care provided in public spaces and its philosophy and methods.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。
第1回：オリエンテーション
第2回：チャプレンとビハーラ僧
第3回：「臨床宗教師」の誕生
第4回：生活の中にある心のケア
第5回：スピリチュアルペイン
第6回：スピリチュアルな探求
第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
第9回：宗教的資源の活用
第10回：宗教的ケア
第11回：臨床宗教師の可能性
第12回：臨床宗教師の資質
第13回：ワークショップ「死の体験」
第14回：ワークショップ振り返り
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]
9. 教科書および参考書：
教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：ANDREWS DALE

コード：LB52102, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アメリカ大学における怪談

2. Course Title (授業題目)：A study of ghost folklore from American colleges

3. 授業の目的と概要：本授業では、アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" という民俗誌を読み、"ghostlore", つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする。本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊, 大学, アメリカ, 伝承, フォークロア, 死生観, 通過儀礼, 異文化)

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class we will read the folklore text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" written by American folklorist Prof. Elizabeth Tucker. Discussions will concern "ghostlore" found on American college campuses. We will focus on one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture's folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted in English.

5. 学習の到達目標：受講生は、(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる。(2) 英語で意見を述べることができる。(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる。(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students should have acquired the following skills: (1) Be able to make basic translations of English text. (2) Be able to express an opinion in English. (3) Be able to explain the elements of American college ghostlore. (

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Reading the text "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" we will progress from Chapter 1 through Chapter 8. The tentative schedule is as follows: First semester: Chapter 1 Campus Ghostlore, Chapter 2 Sensory Evidence, Chapter 3 Ghostly Evidence, & Chapter 4 Troubling Encounters; Second semester: Chapter 5 Desperate Lovers, Chapter 6 Wailing Women, Chapter 7 Spectral Indians, & Chapter 8 Legend Quests.

8. 成績評価方法：

授業中のディスカッションおよび課題：30%; オンライン小テスト (Google classroom)：70%.

9. 教科書および参考書：

Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007) ISBN-10: 1578069955. (電子版可) ASIN: B001RNO1AY

10. 授業時間外学習：1 to 3 hours per week of out of class study is required. 週 1~3 時間の自主的学修をすること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

The textbook "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" is required. Paperback or Kindle.

科目名：宗教学講読／ Science of Religions (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ANDREWS DALE

コード：LB62102, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アメリカ大学における怪談
2. Course Title (授業題目)：A study of ghost folklore from American colleges
3. 授業の目的と概要：本授業では、アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した“Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses”という民俗誌を読み、“ghostlore”，つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする。本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊，大学，アメリカ，伝承，フォークロア，死生観，通過儀礼，異文化) (前期の LB462 の続き)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class we will read the folklore text “Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses” written by American folklorist Prof. Elizabeth Tucker. Discussions will concern “ghostlore” found on American college campuses. We will focus on one aspect of American folk belief, but it is hoped that students will gain greater insight into contemporary American society, and be challenged to re-examine through the critical lens of folklore studies their own culture’s folk beliefs regarding supernatural phenomenon. This class will be conducted in English.
5. 学習の到達目標：受講生は、(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる。(2) 英語で意見を述べることができる。(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる。(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students should have acquired the following skills:
(1) Be able to make basic translations of English text. (2) Be able to express an opinion in English. (3) Be able to explain the elements of American college ghostlore. (
7. 授業の内容・方法と進度予定：
“Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses” の各章を読みすすめます。予定としては、前期：Chapter 1 Campus Ghostlore, Chapter 2 Sensory Evidence, Chapter 3 Ghostly Evidence, & Chapter 4 Troubling Encounters; 後期：Chapter 5 Desperate Lovers, Chapter 6 Wailing Women, Chapter 7 Spectral Indians, & Chapter 8 Legend Quests.
8. 成績評価方法：
授業中のディスカッションおよび課題：30%; オンライン小テスト (Google classroom)：70%.
9. 教科書および参考書：
Textbook: “Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses” (University Press of Mississippi, 2007) ISBN-10: 1578069955. (電子版可) ASIN: B001RNO1AY
10. 授業時間外学習：1 to 3 hours per week of out of class study is required. 週 1～3 時間の自主的学修をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
The textbook “Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses” is required. Paperback or Kindle.

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木村 敏明・高橋 原・谷山 洋三・問芝 志保

コード：LB55502, 科目ナンバリング：LHM-RES304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.
5. 学習の到達目標：宗教学研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 グループ1
 3. 学部3年発表 グループ2
 4. 学部3年発表 グループ3
 5. 学部3年発表 グループ4
 6. 学部3年発表 グループ5
 7. 学部3年発表 グループ6
 8. 予備日：学部3年欠席者のため
 9. 学部4年発表 グループ1
 10. 学部4年発表 グループ2
 11. 学部4年発表 グループ3
 12. 学部4年発表 グループ4
 13. 学部4年発表 グループ5
 14. 学部4年発表 グループ6
 15. 予備日：学部4年欠席者のため
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：宗教学演習／ Science of Religions (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：問芝 志保、木村 敏明、高橋 原、谷山 洋三

コード：LB65502, 科目ナンバリング：LHM-RES304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学研究の技法
2. Course Title (授業題目)：How to study religions: presentation and discussion class
3. 授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to present the result of their study, to hear and understand them precisely and to discuss about them logically. In every class, students will make discussions on the presentations done by 2-3 students in turn.
5. 学習の到達目標：宗教学研究のために必要な知識と技法を習得することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain abundant knowledge and skills required in religious studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. インTRODククション：授業の狙いおよび進め方
 2. 学部3年発表 グループ1
 3. 学部3年発表 グループ2
 4. 学部3年発表 グループ3
 5. 学部3年発表 グループ4
 6. 学部3年発表 グループ5
 7. 予備日：学部3年欠席者のため
 8. 学部4年発表 グループ1
 9. 学部4年発表 グループ2
 10. 学部4年発表 グループ3
 11. 学部4年発表 グループ4
 12. 学部4年発表 グループ5
 13. 予備日：学部4年欠席者のため
 14. 学部2年発表 グループ1
 15. 学部2年発表 グループ2
8. 成績評価方法：

発表および討論への参加。
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.
10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時. 前期 月曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：阿部 友紀. 谷山 洋三. 間芝 志保. 木村 敏明

コード：LB51406, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：民間信仰の基礎 社会組織と講
3. 第二回：民間信仰の基礎 年中行事①
4. 第三回：民間信仰の基礎 年中行事②
5. 第四回：民間信仰の基礎 人生儀礼①
6. 第五回：民間信仰の基礎 人生儀礼②
7. 第六回：民間信仰の基礎 神社と寺院
8. 第七回：民間信仰の基礎 民話と伝説
9. 第八回：民間信仰の基礎 民間信仰の現在
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：宗教学実習／ Science of Religions (Field Work)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時, 後期 月曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：谷山 洋三, 問芝 志保, 木村 敏明, 阿部 友紀

コード：LB61407, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし